

令和4年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	山梨県		市町村類型	1-2		指定団体等の指定状況		区分		令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)
						財政健全化等	×	歳入総額	2,465,794			2,548,529	実質収支比率		
市町村名	鳴沢村		地方交付税種地	2-2		財源超過	×	歳出総額	2,272,771	2,405,566	経常収支比率	74.2	70.0		
						首都	×	歳入歳出差引	193,023	142,963	(※1)	(74.2)	(70.0)		
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	29,458	12,520	標準財政規模	1,657,969	1,694,509		
						中部	×	実質収支	163,565	130,443	財政力指数	0.55	0.58		
人口	令和2年国調(人)	2,824	産業構造(※5)		過疎	×	単年度収支	33,122	-68,246	公債費負担比率	3.9	3.7			
	平成27年国調(人)	2,921			山振	○	積立金	437	489	健全化判断比率	-	-			
	増減率(%)	-3.3			低開発	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口(※7)	令05.01.01(人)	3,121	第1次	令和2年国調	136	154	指数表選定	○	積立金取崩し額	0	0	連結実質赤字比率	-	-	
	うち日本人(人)	3,082		令和2年国調	9.0	9.9	実質単年度収支	33,559	-67,757	実質公債費比率	-2.2	-2.2			
	令04.01.01(人)	3,127	第2次	平成27年国調	449	472	基準財政収入額	747,275	704,216	資金不足比率(※4)	-	-			
	うち日本人(人)	3,088		令和2年国調	29.7	30.2	基準財政需要額	1,407,523	1,366,863						
	増減率(%)	-0.2	第3次	平成27年国調	927	935	標準税収入額等	964,325	908,630						
	うち日本人(%)	-0.2		令和2年国調	61.3	59.9	経常経費充当一般財源等	1,246,144	1,174,214						
面積(km ²)	89.58		世帯数(世帯)	1,056		歳入一般財源等	2,051,030	2,088,773							
人口密度(人/km ²)	32		職員状況(※8)		地方債現在高	148,344	224,203								
世帯数(世帯)	1,056		区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	うち公的資金	82,185	133,317		
特別職等	市区町村長	1	5,760	一般職員	47	136,723	2,909	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	50,576	90,552	債務負担行為額(支出予定額)	21,739	28,818		
	副市区町村長	1	4,900	うち消防職員	-	-	-	収益事業収入	-	-	土地開発基金現在高	19,122	19,113		
	教育長	1	4,500	うち技能労務職員	1	*	*	財政調整基金	1,189,885	1,189,448	減債基金	60,931	60,930		
	議会議長	1	1,800	教育公務員	-	-	-	その他特定目的基金	2,858,106	2,615,140	関係する一部事務組合等一覧	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	団体名	(※3)
	議会副議長	1	1,580	臨時職員	-	-	-	積立金現在高	-	-	(7) 富士五湖広域行政事務組合(一般会計)		(8) 富士五湖広域行政事務組合(富士五湖聖苑特別会計)		
	議会議員	8	1,500	合計	47	136,723	2,909	ラスバイレス指数	95.3		(9) 河口湖南中学校組合(一般会計)		(10) 山梨県市町村総合事務組合(一般会計)		
											(11) 山梨県市町村総合事務組合(行政手続きの電子化事業及び会館管理・研修事業特別会計)		(12) 山梨県市町村総合事務組合(一般廃棄物最終処分場事業特別会計)		
										(13) 山梨県市町村総合事務組合(入札参加資格審査事業特別会計)		(14) 山梨県市町村総合事務組合(交通災害共済事業特別会計)			
										(15) 青木が原ごみ処理組合		(16) 青木ヶ原衛生センター			
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧										
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名								
(1) 一般会計		(2) 国民健康保険特別会計		(6) 簡易水道事業特別会計											
		(3) 介護保険特別会計													
		(4) 後期高齢者医療特別会計													
		(5) 介護予防支援事業特別会計													

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。

※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)					地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	828,463	33.6	828,463	49.3	普通税	794,498	95.9	-	-
地方譲与税	30,193	1.2	30,193	1.8	法定普通税	794,498	95.9	-	-
利子割交付金	172	0.0	172	0.0	市町村民税	232,588	28.1	-	-
配当割交付金	2,141	0.1	2,141	0.1	個人均等割	15,253	1.8	-	-
株式等譲渡所得割交付金	1,871	0.1	1,871	0.1	所得割	166,976	20.2	-	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	37,187	4.5	-	-
地方消費税交付金	81,418	3.3	81,418	4.8	法人税割	13,172	1.6	-	-
ゴルフ場利用税交付金	45,031	1.8	45,031	2.7	固定資産税	516,036	62.3	-	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	511,294	61.7	-	-
自動車取得税交付金	58	0.0	58	0.0	軽自動車税	15,450	1.9	-	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	30,424	3.7	-	-
自動車税環境性能割交付金	3,164	0.1	3,164	0.2	鉦産税	-	-	-	-
法人事業税交付金	9,412	0.4	9,412	0.6	特別土地保有税	-	-	-	-
地方特例交付金等	2,546	0.1	2,546	0.2	法定外普通税	-	-	-	-
個人住民税減収補填特例交付金	2,546	0.1	2,546	0.2	目的税	33,965	4.1	-	-
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	-	-	-	-	法定目的税	33,965	4.1	-	-
地方交付税	772,110	31.3	660,248	39.3	入湯税	33,965	4.1	-	-
普通交付税	660,248	26.8	660,248	39.3	事業所税	-	-	-	-
特別交付税	111,862	4.5	-	-	都市計画税	-	-	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	水利地益税等	-	-	-	-
(一般財源計)	1,776,579	72.0	1,664,717	99.1	法定外目的税	-	-	-	-
交通安全対策特別交付金	527	0.0	527	0.0	旧法による税	-	-	-	-
分担金・負担金	21,568	0.9	9,702	0.6	合計	828,463	100.0	-	-
使用料	6,988	0.3	-	-					
手数料	19,602	0.8	-	-					
国庫支出金	233,637	9.5	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	102,645	4.2	-	-					
財産収入	68,075	2.8	2,703	0.2					
寄附金	53,387	2.2	-	-					
繰入金	12,585	0.5	-	-					
繰越金	142,963	5.8	-	-					
諸収入	24,438	1.0	1,784	0.1					
地方債	2,800	0.1	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	-	-	-	-					
歳入合計	2,465,794	100.0	1,679,433	100.0					

歳出の状況 (単位 千円・%)				
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	52,521	2.3	-	52,521
総務費	720,864	31.7	35,240	594,260
民生費	520,534	22.9	1,833	356,697
衛生費	312,095	13.7	17,402	257,152
労働費	-	-	-	-
農林水産業費	47,741	2.1	2,474	35,518
商工費	57,614	2.5	-	56,554
土木費	124,489	5.5	86,855	92,971
消防費	136,894	6.0	1,346	136,124
教育費	220,587	9.7	3,243	196,778
災害復旧費	-	-	-	-
公債費	79,432	3.5	-	79,432
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	2,272,771	100.0	148,393	1,858,007

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	751,522	33.1	608,515	587,392	35.0
人件費	479,484	21.1	445,360	438,737	26.1
うち職員給	255,322	11.2	232,055	-	-
扶助費	192,606	8.5	83,723	69,223	4.1
公債費	79,432	3.5	79,432	79,432	4.7
元利償還金	79,432	3.5	79,432	79,432	4.7
うち元金	78,659	3.5	78,659	78,659	4.7
うち利子	773	0.0	773	773	0.0
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	1,372,856	60.4	1,131,413	658,752	39.2
物件費	458,267	20.2	332,485	292,139	17.4
維持補修費	21,694	1.0	21,694	21,694	1.3
補助費等	457,301	20.1	426,547	264,511	15.8
うち一部事務組合負担金	217,959	9.6	217,959	190,158	11.3
繰出金	179,605	7.9	154,239	80,408	4.8
積立金	255,989	11.3	196,448	-	-
投資・出資金・貸付金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	148,393	6.5	118,079	-	-
うち人件費	13,881	0.6	13,881	-	-
普通建設事業費	148,393	6.5	118,079	-	-
うち補助	9,736	0.4	5,328	-	-
うち単独	138,657	6.1	112,751	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	2,272,771	100.0	1,858,007	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和4年度 山形県鶴岡市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 会計名, 歳入, 歳出, 形式収支, 実質収支, 一般会計等からの繰入金, 地方債現在高, 備考. Includes a summary row for '一般会計等(総計)'.

※一般会計等(総計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 会計名, 形収益(繰入), 形費用(繰出), 形利益(形式収支), 資産新収額/不足額(実質収支), 一般会計等からの繰入金, 企業債(地方債)現在高, 左のうち一般会計等繰入金見込額, 資金不足比率, 備考. Includes a summary row for '公営企業会計等'.

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

Table with columns: 一部事務組合等名, 形収益(繰入), 形費用(繰出), 形利益(形式収支), 資産新収額/不足額(実質収支), 一般会計等からの繰入金, 企業債(地方債)現在高, 左のうち一般会計等繰入金見込額, 備考. Includes a summary row for '一部事務組合等'.

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

Table with columns: 地方公社・第三セクター等名, 経常損益, 純資産又は正味財産, 当該団体からの出資金, 当該団体からの補助金, 当該団体からの貸付金, 当該団体からの債務保証に係る負債残高, 当該団体からの損失補償に係る負債残高, 一般会計等負担見込額, 備考. Includes a summary row for '地方公社・第三セクター等'.

※地方公共団体が20%以上出資している法人又は財政的支援を行っている法人を記載している。
※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

Table showing public debt service burden status with columns: 区分, 実質公債費比率(千円・%), 令和2年度, 令和3年度, 令和4年度, 分母比. Includes sub-sections for '元利償還金' and '特定財源の額'.

将来負担の状況

Table showing future liability status with columns: 区分, 将来負担率(千円・%), 令和2年度, 令和3年度, 令和4年度, 分母比. Includes sub-sections for '元利償還金' and '特定財源の額'.

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和4年度

山梨県鳴沢村

人	3,121	人(R5.1.1現在)	実	-	%					
うち日本人	3,082	人(R5.1.1現在)	結	-	%					
面積	89.58	km ²	算	-2.2	%					
歳入総額	2,465,794	千円	実	-	%					
歳出総額	2,272,771	千円	来	-	%					
実質収支	163,565	千円	市	H30	I-1	R01	I-1	R02	I-1	
標準財政規模	1,657,969	千円	(年	度	毎)	R03	I-2	R04	I-2
地方債現在高	148,344	千円								



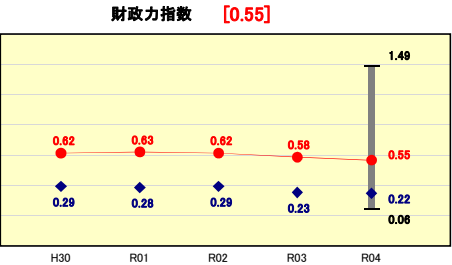
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力

類似団体内順位 5/94 全国平均 0.49 山梨県平均 0.50

財政力指数の分析欄

入力前年度から0.03ポイント減少した。
 類似団体の平均と比較すると数値は良好であるが、村の基幹税である固定資産税のうち土地の下落傾向は続いており、今後も基準財政収入額の増加は見込めない状況であり、地方税の徴収強化等の取組を通じて財政基盤の強化に努める。

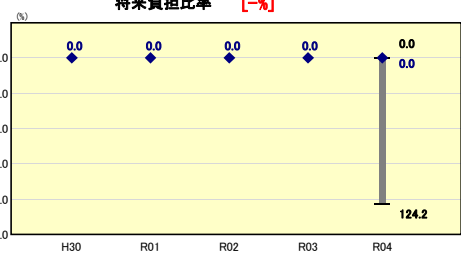


将来負担の状況

類似団体内順位 1/94 全国平均 8.8 山梨県平均 0.0

将来負担比率の分析欄

将来的に予想される負担額に対して、それらに充当可能な基金等の財源が上回るため数値はないが、実数値は△341.3%で、前年度数値(△329.7%)から11.6ポイント改善した。
 これは、地方債の現在高の減少による将来負担額の減少と基金の増加による充当可能財源等が増加したことが要因となっている。数値は類似団体の中でも良好となっていることから、さらなる財政健全化に努め数値の維持を図る。

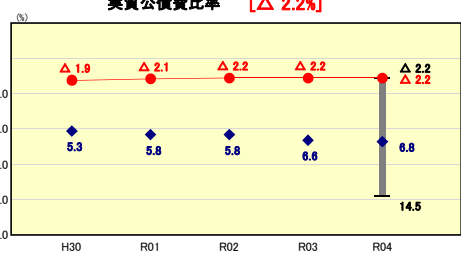


公債費負担の状況

類似団体内順位 1/94 全国平均 5.5 山梨県平均 7.8

実質公債費比率の分析欄

直近3年の平均は前年度と比較して増減はなし。
 単年度の比率では、令和2年度が△2.41001%、令和3年度が△2.15315%、令和4年度が△2.15273%となっている。
 令和4年度の単年度の比率では、前年度と比較し0.00042ポイント悪化しているが、早期健全化基準と比較すると27.2ポイント良好な数値となっており、まったく問題はないものと考えられる。
 近年では起債した70%が交付税措置される緊急防災・減災事業債を活用した事業を行っているが、数値にとられることなく、このような財政上有利な起債を積極的に活用していくことも必要である。

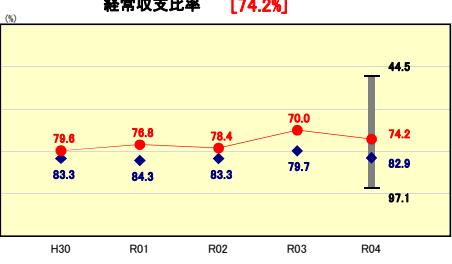


財政構造の弾力性

類似団体内順位 13/94 全国平均 92.2 山梨県平均 87.4

経常収支比率の分析欄

経常収支比率については、前年度と比較して全体で4.2ポイント増加した。これは、一般経常財源は、全体で203万6千円の増加に対し、経常的な歳出は7,193万円の増加で、経常一般財源の増加率を経常的な歳出の増加率が上回ったことによるものである。
 経常一般財源を見ると、数年、コロナ禍により落ち込んでいた税収が復調の兆しが見え始めたことにより、昨年度より2,837万4千円増加した一方で地方特例交付金(△2,907万9千円)や地方交付税(△239万9千円)は減少した。
 経常的な歳出を性別に見ると、補助費等、物件費、人件費等が増加しており、特に補助費等(3,493万8千円)の増加となっている。これは、広域行政事務組合への負担金の増によるものである。経常的な歳出も全体では増加となった。
 今後も、さらなる事務事業の見直しを進め、すべての事務事業の優先度を再点検し、優先度の低い事務事業の廃止・縮小の検討を行い、財政が硬直化しないように努める。



定員管理の状況

類似団体内順位 7/94 全国平均 8.25 山梨県平均 7.95

人口1,000人当たり職員数の分析欄

前年度と比較して0.29人減少した。
 従来から類似団体の平均と比較して少ない職員数となっている。
 地方分権や少子高齢化・IT化・国際化の進展など行政を取り巻く社会環境の急激な変化により、住民のニーズにあった施策の必要性が求められている中、業務量は増加傾向であるが、一層の人材育成を推進し、職員個々の資質向上を図ることににより最低限の職員で、より良いサービスを提供できるようにし、職員数の抑制を図っていく必要がある。
 今後も定員管理の適正化については定員適正化計画により、的確に必要な人員を見定めながら運用していく。

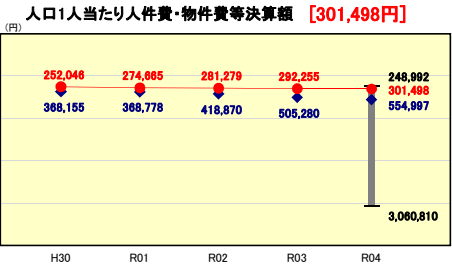


人件費・物件費等の状況

類似団体内順位 5/94 全国平均 160,081 山梨県平均 173,548

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

前年度と比較して、924万3千円(3.2%)の増となった。
 これは、人件費288万3千円(0.6%)、物件費1,769万8千円(4.0%)と共に増となったことによるものである。物件費については、コロナ禍により中止していたロードレース大会を実施したことによる増(1,213万9千円)等である。
 類似団体の平均と比較して良好であり、引き続き抑制に努める。

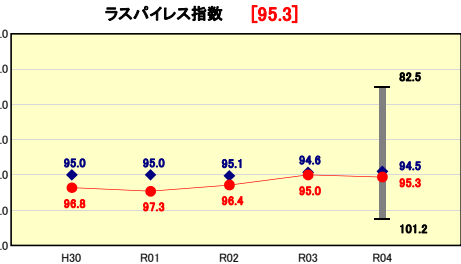


給与水準(国との比較)

類似団体内順位 55/94 全国市平均 98.7 全国町村平均 98.3

ラスパイレス指数の分析欄

近年、類似団体平均を上回っている傾向が続いている。
 平成27年度に、従来の若年層の号給を抑制した給料体系を見直し、学歴、職務・職責に応じた号給になるよう調整を行い、以前まで抑制されていた昇給分を調整したことによりラスパイレス指数が増加したことに加え、職員の異動・経験年数の増加により、経験年数階層別職員数に変動があったためと考えられる。
 引き続き、計画的な職員採用等により、年齢構成の不均等が解消されるように努めるなどして、給与の適正化を図る。



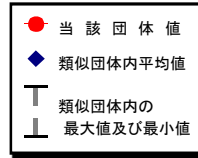
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

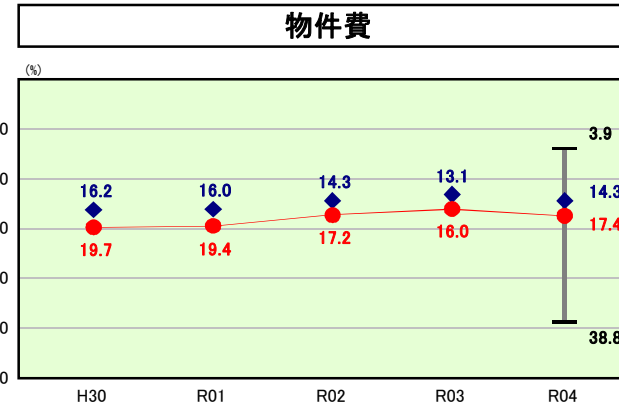
山梨県鳴沢村

経常収支比率の分析

人口	3,121人	(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	3,082人	(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	89.58	km ²	実質公債費比率	-2.2	%
歳入総額	2,465,794	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	2,272,771	千円	市町村類型	H30 I-1 R01 I-1 R02 I-1	
実質収支	163,565	千円	(年度毎)	R03 I-2 R04 I-2	
標準財政規模	1,657,969	千円			
地方債現在高	148,344	千円			

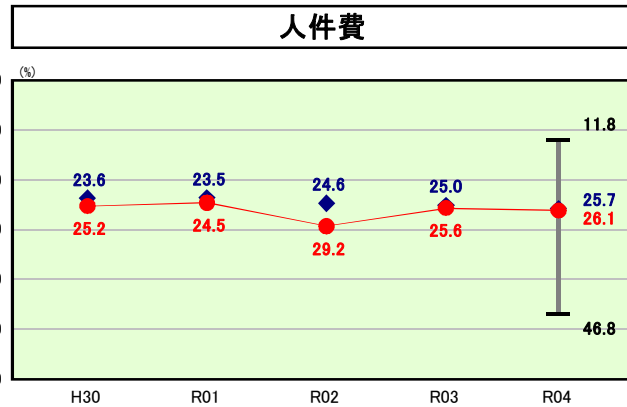


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



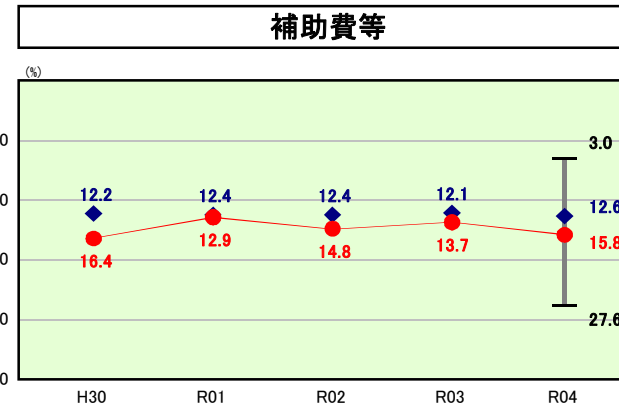
物件費の分析欄

前年度比1.4ポイントの増となった。類似団体の平均値を上回っていることから、物件費の削減を進めているが、引き続き他団体との比較検証を行い、改善点を見いだし是正を行う。



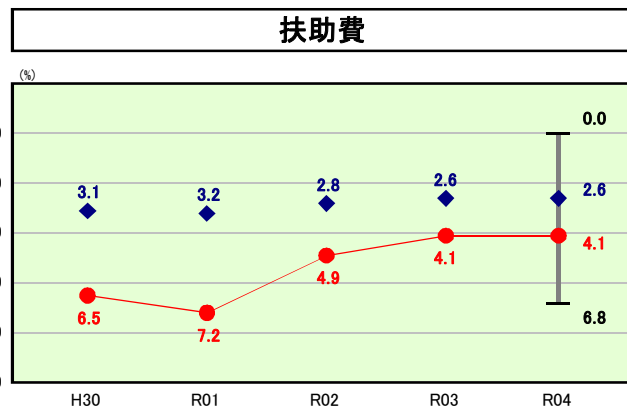
人件費の分析欄

人件費は、前年度比0.5ポイントの増となった。類似団体の平均を上回っているが、地方分権や少子高齢化・IT化・国際化の進展など行政を取り巻く社会環境の急激な変化により、住民のニーズにあった施策の必要性が求められている中、業務量は増加傾向であるが、より一層の人材育成を推進し、職員個人個人の資質の向上を図りながら、人件費全体について今後も抑制していく必要がある。



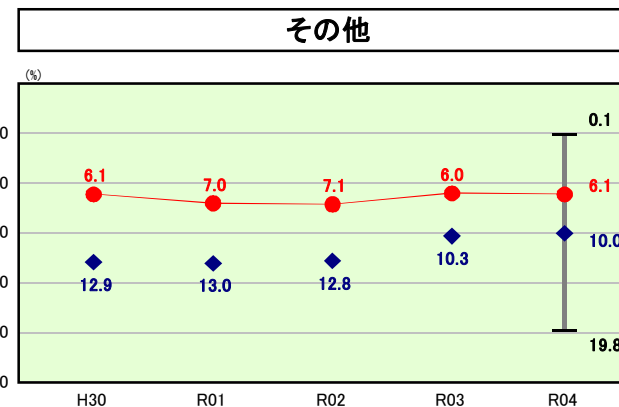
補助費等の分析欄

一部事務組合負担金の増などにより、前年度比2.1ポイントの増となった。近年、類似団体の平均を上回っているが、消防・ごみ処理・火葬場・中学校等を一部事務組合で行っていることが要因である。一部事務組合への負担金の増減に左右されるため、今後も注視していく必要がある。



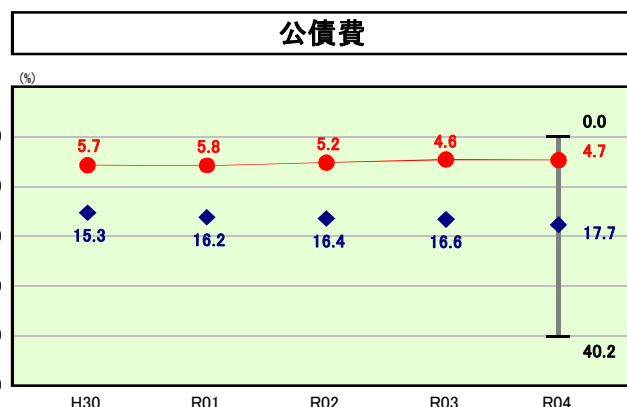
扶助費の分析欄

扶助費は、前年度と比べ増減はなかったが、類似団体の平均を上回っている。これは、村独自の施策(高齢年金支給、障害者年金支給)によるものが要因と思われる。今後、事業の必要性を再点検し、事業の見直し・縮小等の検討を行う必要がある。



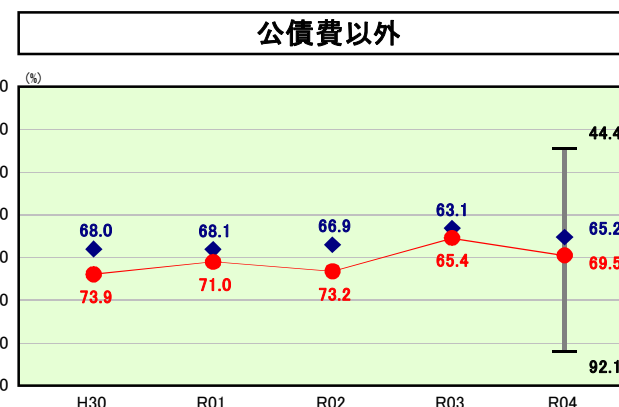
その他の分析欄

他会計への繰出金の増加などにより、前年度比0.1ポイントの増となった。類似団体と比較しても良好な数値となっているが、これは、小規模な村であるため施設等が比較的少なく維持・補修費に経費が掛かっていないことや下水道事業を行っていないことなどが要因と考えられる。今後は、施設の老朽化が進み、維持補修費の増加が推測されることから、施設の更新・廃止等の検討が必要となる。また、簡易水道会計においては、配水管の更新時期を迎え、繰出金の増加が見込まれることから、税収を主な財源とする普通会計の負担額を減らしていくよう、さらなる自主財源の確保に努める。



公債費の分析欄

公債費は、前年度比0.1ポイントの増となった。令和5・6年度に起債を予定しているが、これ以外に新たな起債を行わない限り、償還額が年々減少する見込みであることから、数値の減少が見込まれる。類似団体の平均と比較しても良好な数値となっていることから、今後も数値の維持を図り、財政の健全化に努める。



公債費以外の分析欄

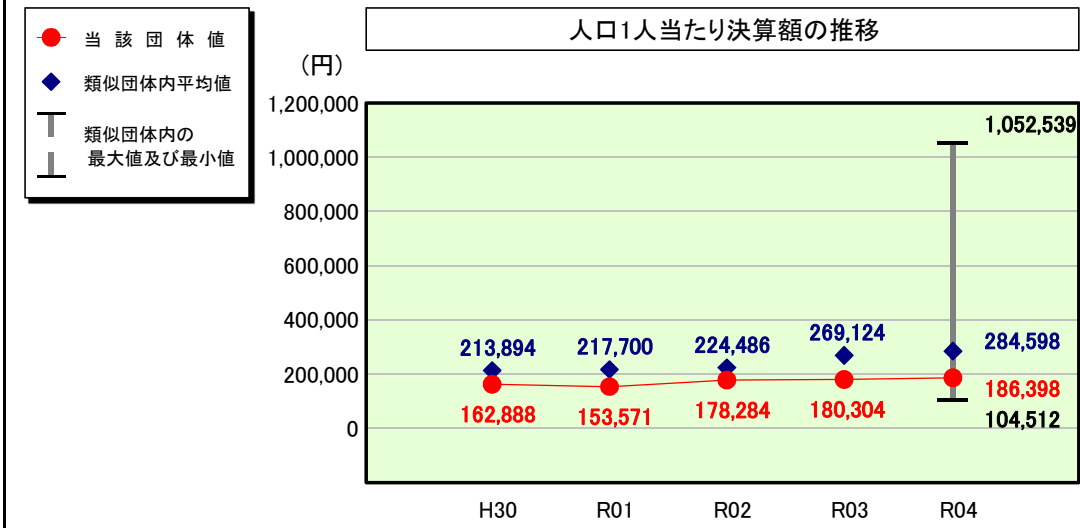
類似団体の平均と比較し、4.3ポイント上回っているが、当村においては、補助金を活用した事業等を積極的に行うなど、起債による借入れをあまり行わないため、公債費と比較して公債費以外の占める割合が大きくなっている。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

山梨県鳴沢村

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

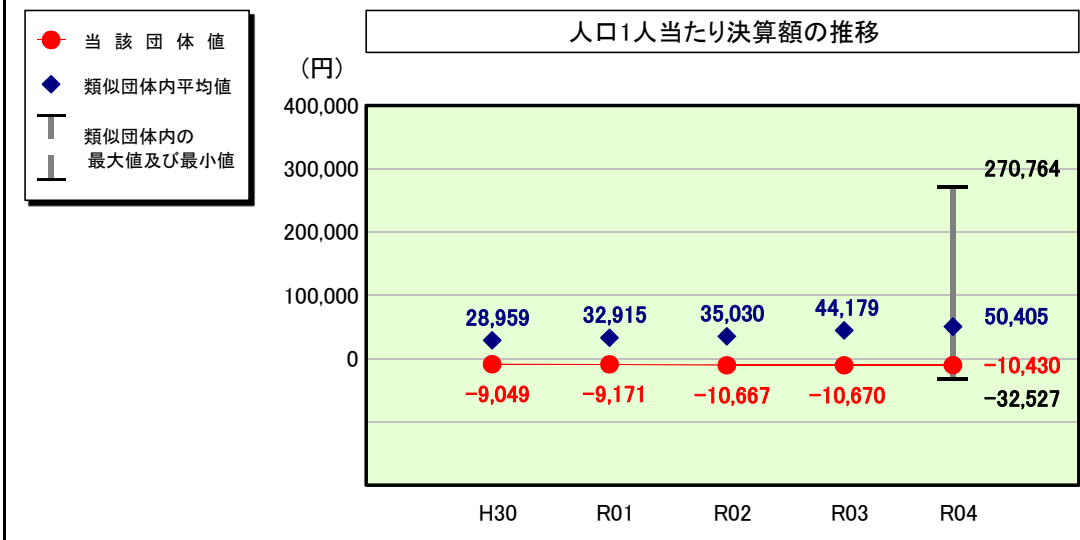
項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	479,484	153,632	255,467	▲ 39.9
一部事務組合負担金(補助費等)	98,909	31,691	29,275	8.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	3,959	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	21,826	6,993	9,349	▲ 25.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	13,881	4,448	4,659	▲ 4.5
▲退職金	▲ 32,351	▲ 10,366	▲ 18,111	▲ 42.8
合計	581,749	186,398	284,598	▲ 34.5

参考

項目	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	15.06	25.07	▲ 10.01
ラスパイレス指数	95.3	94.5	0.8

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

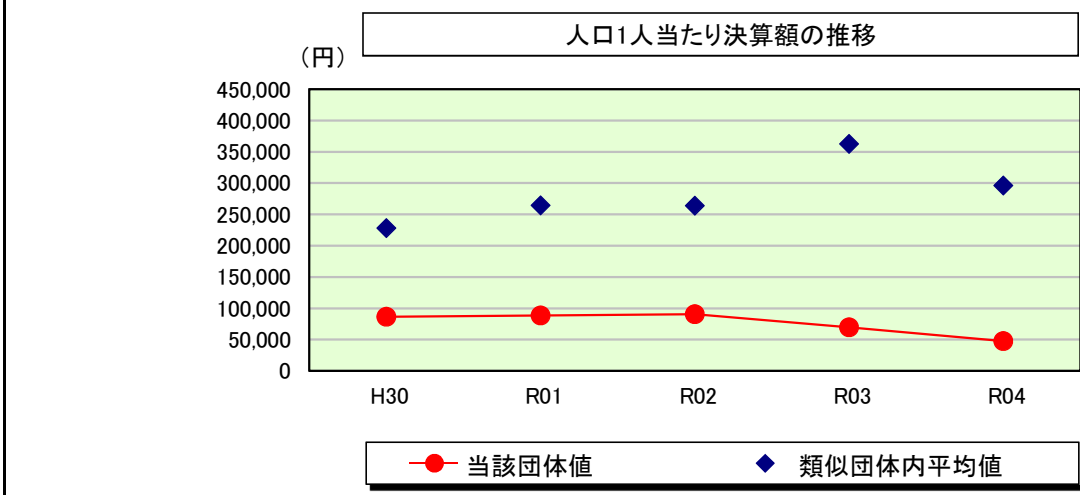


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額(繰上償還額等を除く)	79,432	25,451	156,764	▲ 83.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの(年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	4	1	30,923	▲ 100.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	26,730	8,565	4,657	83.9
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	7,079	2,268	888	155.4
一時借入金利息(同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	21	-
▲特定財源の額	-	-	▲ 6,724	-
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 145,798	▲ 46,715	▲ 136,123	▲ 65.7
合計	▲ 32,553	▲ 10,430	50,405	▲ 120.7

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

年度	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H30	272,385	86,362	51.5	228,215	▲ 14.8	66.3
	うち単独分	210,699	66,804	54.3	117,571	10.5
R01	278,932	88,466	2.4	264,232	15.8	▲ 13.4
	うち単独分	246,866	78,296	17.2	133,959	13.9
R02	284,222	90,603	2.4	263,613	▲ 0.2	2.6
	うち単独分	222,249	70,848	▲ 9.5	128,823	▲ 3.8
R03	216,780	69,325	▲ 23.5	362,690	37.6	▲ 61.1
	うち単独分	168,640	53,930	▲ 23.9	172,580	34.0
R04	148,393	47,547	▲ 31.4	296,093	▲ 18.4	▲ 13.0
	うち単独分	138,657	44,427	▲ 17.6	140,545	▲ 18.6
過去5年間平均	240,142	76,461	0.3	282,969	4.0	▲ 3.7
	うち単独分	197,422	62,861	4.1	138,696	7.2

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

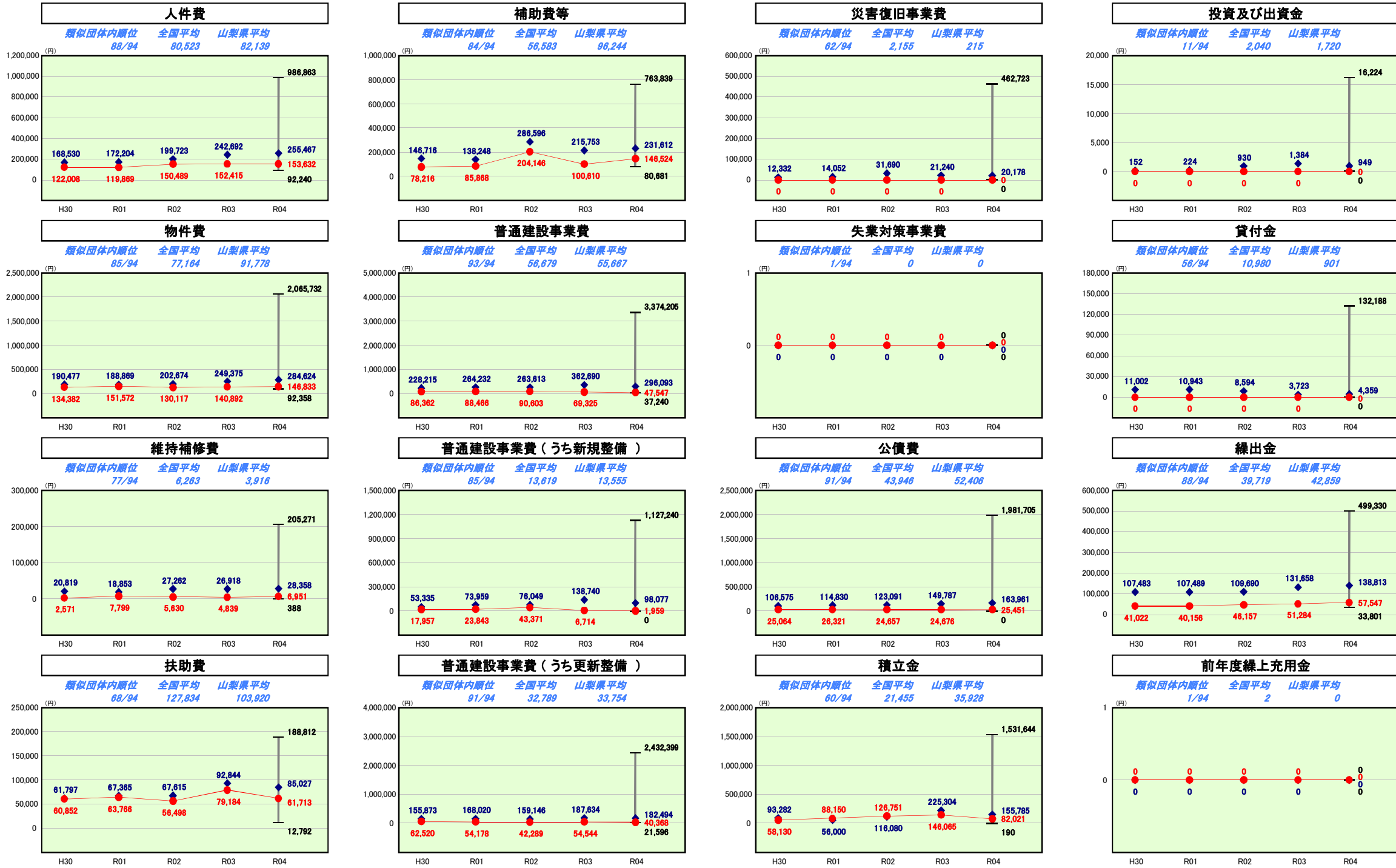
令和4年度

山梨県鳴沢村

人口	3,121人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	3,082人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	89.58 km ²	実質公債費比率	-2.2 %
歳入総額	2,465,794千円	将来負担比率	- %
歳出総額	2,272,771千円	市町村類型	H30 I-1 R01 I-1 R02 I-1
実質収支	163,565千円	(年度毎)	R03 I-2 R04 I-2
標準財政規模	1,657,969千円		
地方債現在高	148,344千円		

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析
性質別歳出での住民1人当たりのコストは、すべての項目で類似団体を下回っているが、類似団体との比較については、人口の開きによるものと推測される。前年度と比較して、1億3,279万5千円(△5.5%)の減となった。金額の増減が大きい項目を見ると、増加している項目は補助費等で、物価高騰対策として村民へくらし応援給付金(1人1万円)の支給やくらし応援商品券(1人1万円分)を配布したことなどから、前年度と比較して、1億2,756万4千円(38.7%)の増となった。一方、減少している項目は積立金で、主に公共施設建設基金の減によるもので、前年度と比較して、2億75万5千円(△44.0%)の減となった。普通建設事業費については、道の駅なるさわ浄化槽改修工事の皆減などにより前年度と比較して、6,838万7千円(△31.5%)の減となった。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

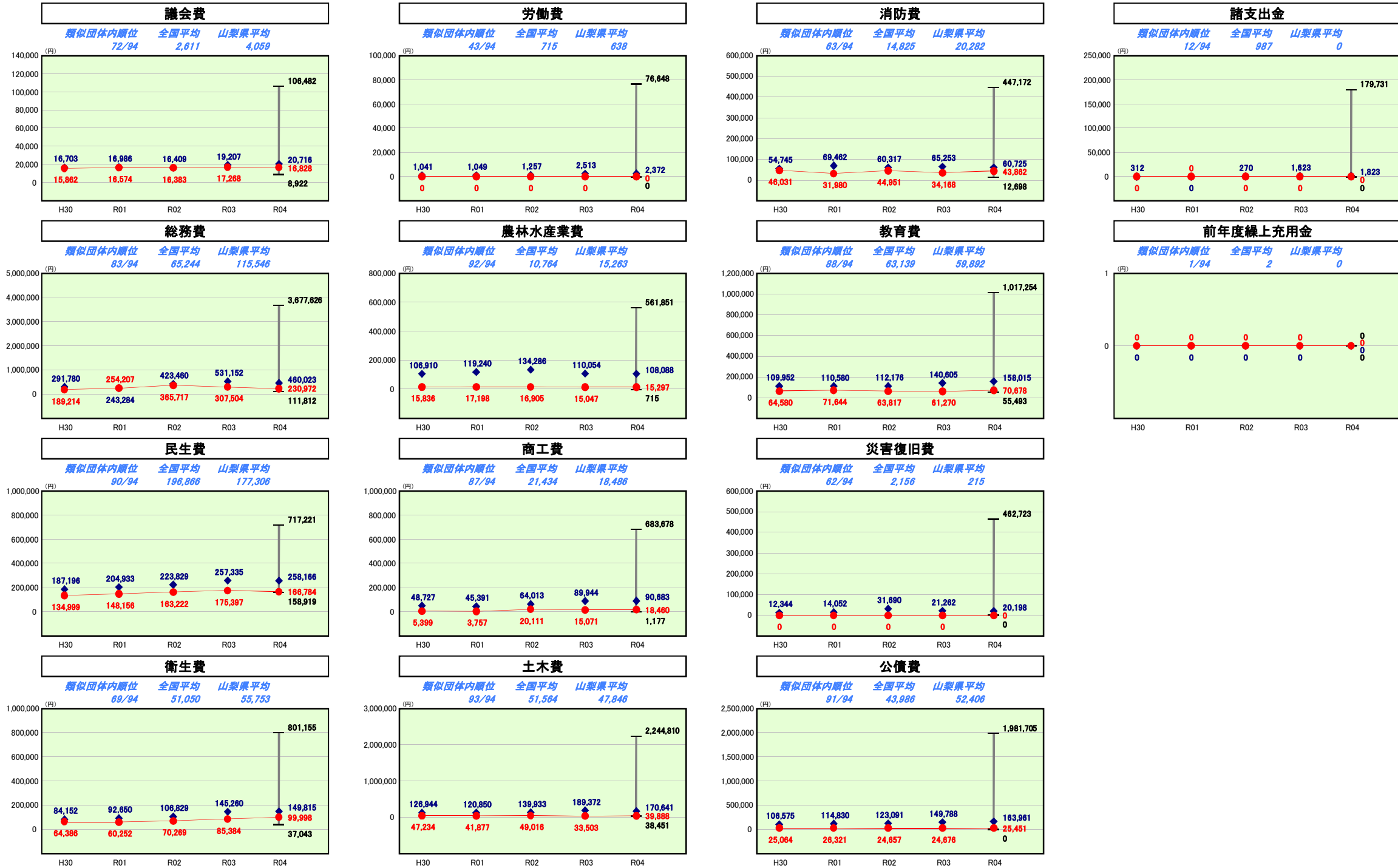
令和4年度

山梨県鳴沢村

人口	3,121人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	3,082人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	89.58km ²	実質公債費比率	-2.2%
歳入総額	2,465,794千円	将来負担比率	-%
歳出総額	2,272,771千円	市町村類型	H30 I-1 R01 I-1 R02 I-1
実質収支	163,565千円	(年度毎)	R03 I-2 R04 I-2
標準財政規模	1,657,969千円		
地方債現在高	148,344千円		

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┆ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



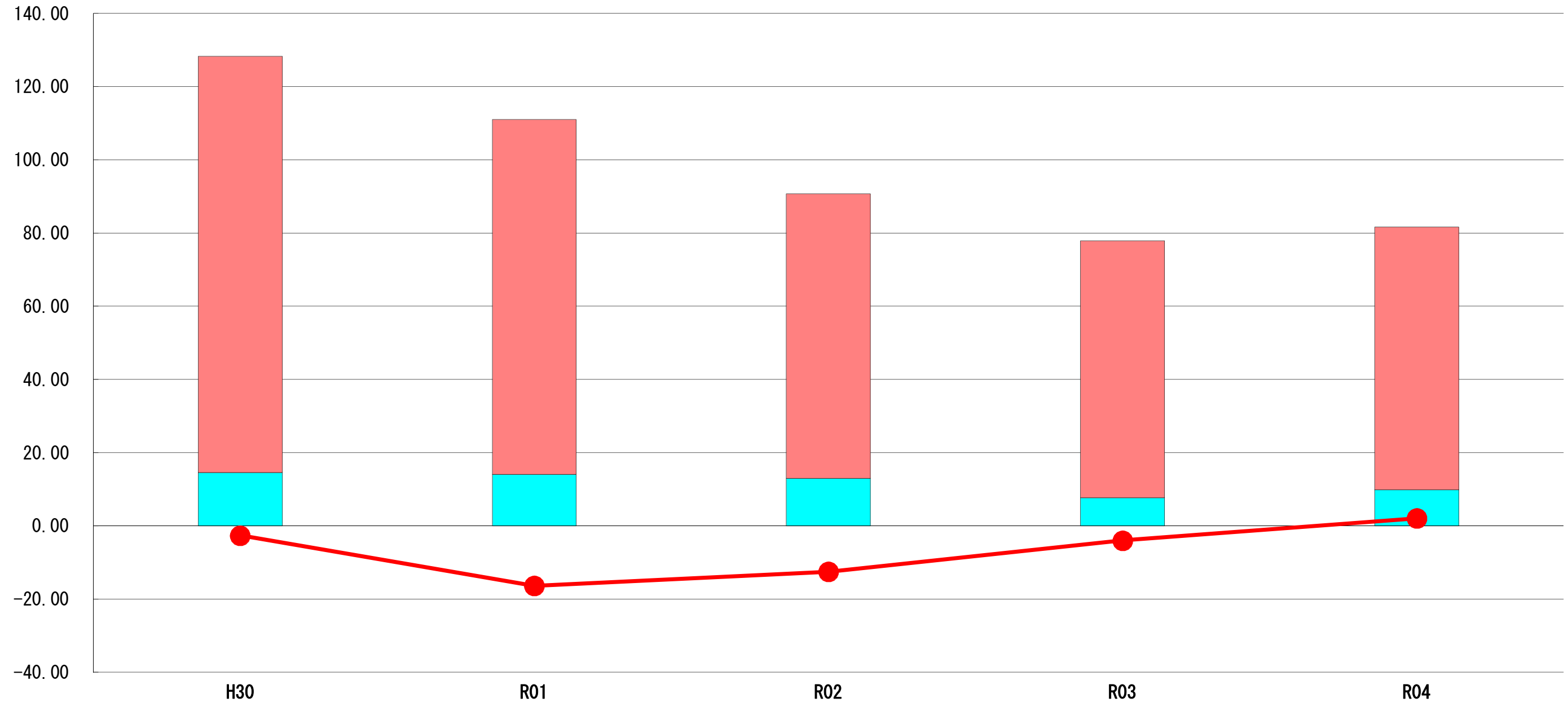
目的別歳出の分析
 性質別歳出での住民1人当たりのコストは、すべての項目で類似団体を下回っているが、類似団体との比較については、人口の開きによるものと推測される。
 前年度と比較して、1億3,279万5千円(△5.5%)の減となった。
 金額の増減の大きい項目を見ると、消防費については、広域行政事務組合への負担金が増えたことにより、前年度比3,005万2千円(28.1%)の増となった。土木費については、活き活き広場へ遊具の新設工事を行ったことなどから、前年度比1,972万4千円(18.8%)の増となった。
 一方、減少した項目では、総務費については、公共施設建設基金の減などにより、前年度比2億4,070万1千円(△25.0%)の減となった。民生費については、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金支給事業の減などにより、前年度比2,793万3千円(△5.1%)の減となった。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)

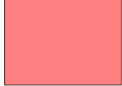


令和4年度

山梨県鳴沢村

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		113.74	96.96	77.77	70.19	71.77
 実質収支額		14.53	14.09	13.00	7.70	9.87
 実質単年度収支		▲ 2.63	▲ 16.34	▲ 12.58	▲ 4.00	2.02

分析欄

令和4年度の財政調整基金残高の標準財政規模に対する割合は71.77%で、前年度と比較し、1.58ポイント増加した。これは、財政調整基金への積立が利子分(437千円)のみであった一方、標準財政規模の、普通交付税額や臨時財政対策債発行可能額が減少したことが要因である。財政調整基金については、国・県の補助金を積極的に活用し特定財源の確保に努め、最低水準の取り崩しに努めている。

実質収支額は、前年度と比較し、2.17ポイント増加した。これは、歳入歳出差引額が前年度から増加したためである。

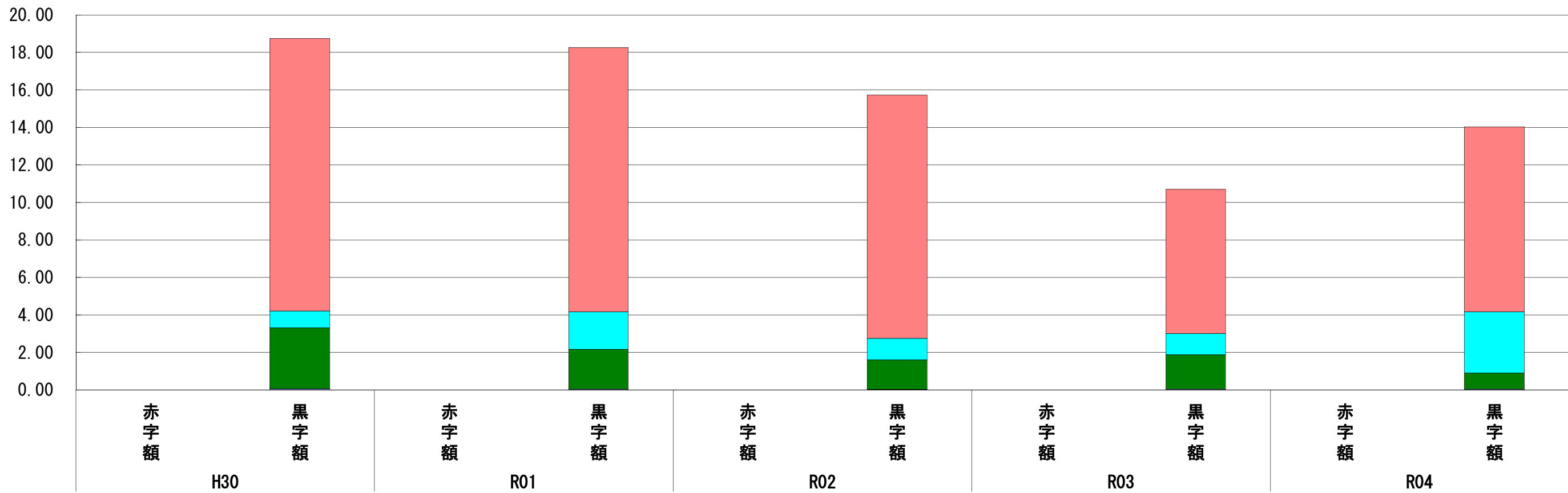
実質単年度収支は、翌年度に繰り越すべき財源として2,945万8千円を確保し、単年度収支額は前年度と比較して3,312万2千円増加し、財政調整基金への積立が利子分のみであった一方、財政調整基金の取り崩しを行わなかったことから、実質収支額が3,355万9千円(対前年度1億131万6千円、149.5%)となり、標準財政規模に対する比率は6.02ポイント増加の2.02となった。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

山梨県鳴沢村

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		14.53	14.09	12.99	7.69	9.86
介護保険特別会計		0.91	2.01	1.14	1.13	3.29
国民健康保険特別会計		3.24	2.11	1.57	1.82	0.84
簡易水道事業特別会計		0.07	0.05	0.03	0.05	0.05
後期高齢者医療特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
介護予防支援事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

分析欄

平成30年度からの5年間では、各会計ともに実質収支は黒字となっている。
 当村の場合、一般会計の他は、法令により最低限の設置が義務付けられている特別会計のみの構成となっているため、一般会計の占める割合が高い。

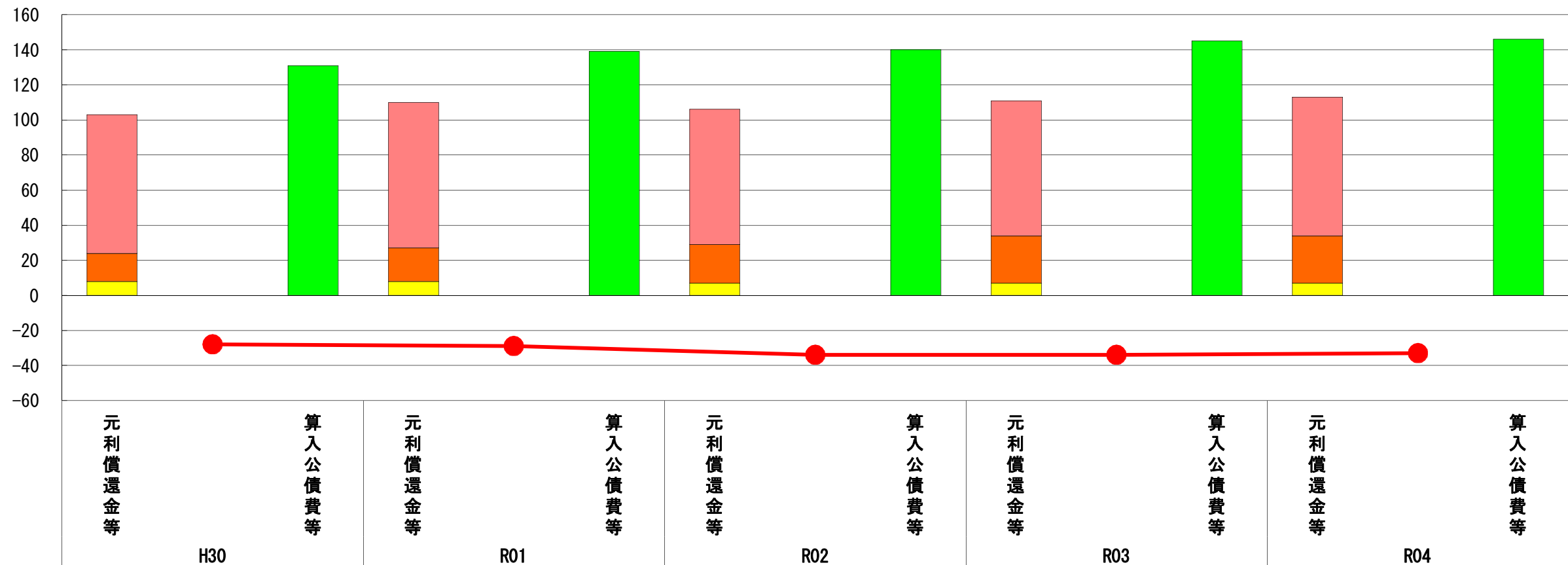
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

山梨県鳴沢村

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等 (A)	元利償還金		79	83	77	77	79
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		-	-	-	-	0
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		16	19	22	27	27
	債務負担行為に基づく支出額		8	8	7	7	7
	一時借入金の利息		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		131	139	140	145	146
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		▲ 28	▲ 29	▲ 34	▲ 34	▲ 33

分析欄

元利償還額等（A）の69.9%を占める元利償還金は、対前年度比2,269千円の増となった。これは、令和2年度に借り入れた減収補てん債等の償還が始まったことによるものである。
 また、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等の内訳は、河口湖南中学校組合が23,483千円、富士五湖広域行政事務組合が3,247千円、債務負担行為に基づく支出額は山梨赤十字病院が7,078千円となっている。
 今後、元利償還金については近年借り入れた緊急防災・減災事業債や今後借り入れ予定の学校教育施設等整備事業債の償還を行っていくことなどから、算入公債費等の増加が見込まれる。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)						
	前年度末減債基金残高 (D)						
	前年度末減債基金積立相当額 (E)						

分析欄

該当なし。

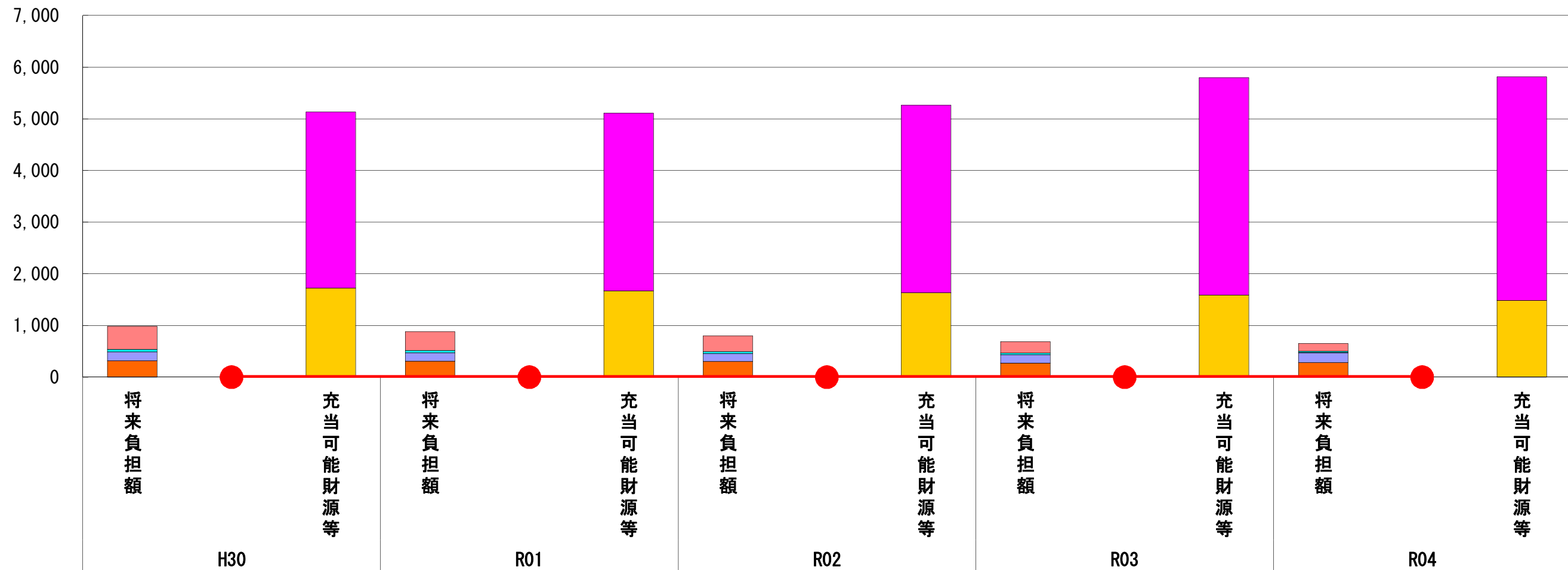
(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。
 減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

山梨県鳴沢村

(百万円)



(百万円)

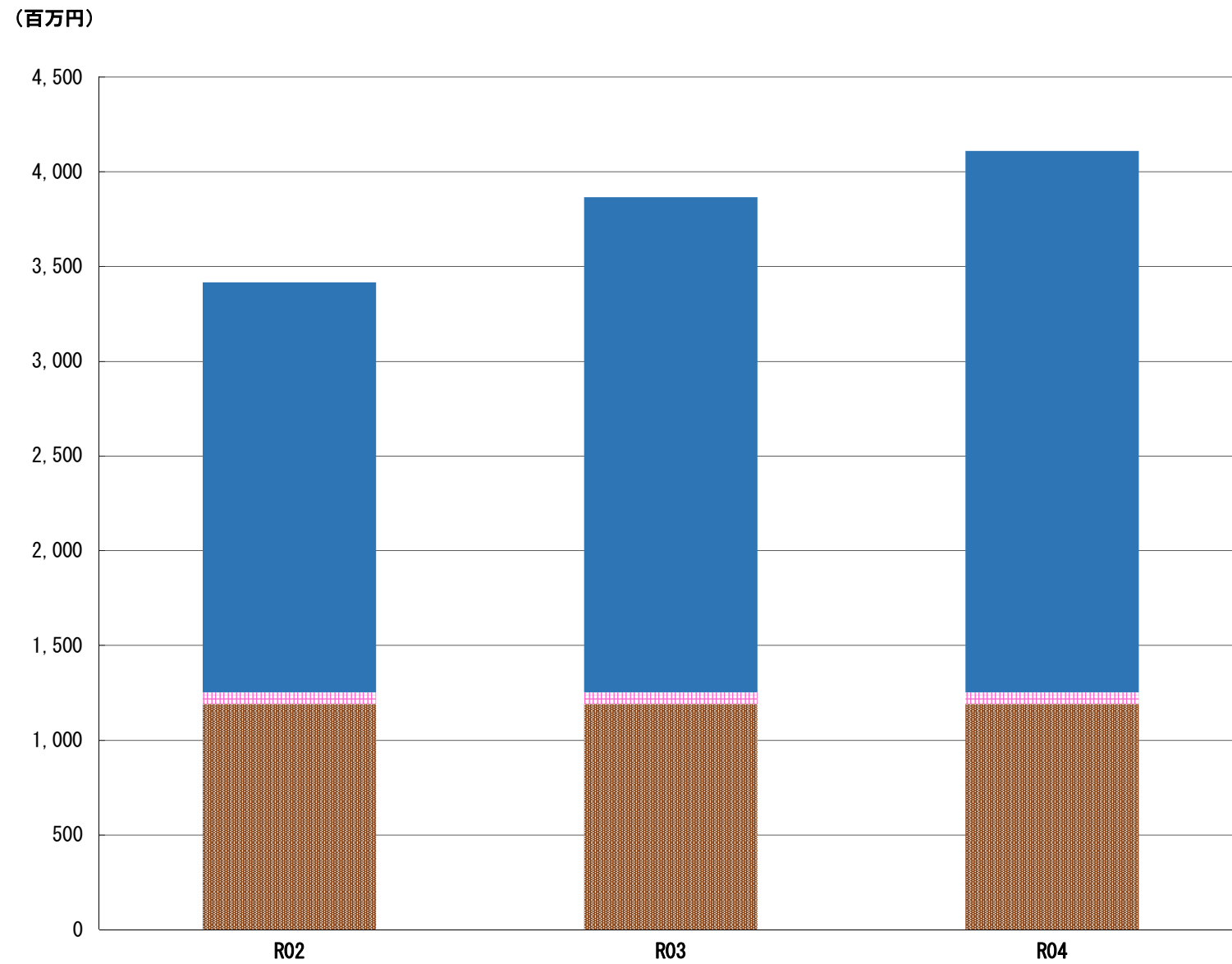
分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		443	362	300	224	148
	債務負担行為に基づく支出予定額		53	45	36	29	22
	公営企業債等繰入見込額		-	-	-	-	6
	組合等負担等見込額		168	169	156	159	193
	退職手当負担見込額		316	306	305	276	280
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,405	3,435	3,631	4,212	4,327
	充当可能特定歳入		-	-	-	-	-
	基準財政需要額算入見込額		1,724	1,674	1,632	1,586	1,483
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 4,150	▲ 4,227	▲ 4,466	▲ 5,110	▲ 5,161

分析欄

将来負担額(A)を充当可能財源(B)が上回っているため、将来負担比率計算式中の分子はマイナス数値となる。
 将来負担額(A)の22.8%が地方債現在高で、43.1%が職員の退職手当負担見込額となっている。
 また、充当可能財源等(B)の74.5%が充当可能基金である。
 今後、将来的に老朽化した施設の更新等に多額の費用が掛かることが予測され、事業実施の際に、基金の取り崩しや起債による財源確保を求められることが想定されることから、引き続き財政健全化に努める。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		1,189	1,189	1,190
減債基金		61	61	61
其他特定目的基金		2,164	2,615	2,858
公共施設建設基金		1,553	1,953	2,145
公共施設修繕基金		238	264	291
地域福祉基金		141	141	141
国際交流基金		100	100	100
ふるさと応援寄附基金		48	70	89
基金残高合計		3,414	3,866	4,109

基金全体

(増減理由)
 令和4年度末の基金残高は、普通会計で41億9千万円となっており、前年度から2億4千3百万円の増加となっている。これは、公共施設建設基金で1億9千2百万円、公共施設修繕基金で2千7百万円、ふるさと応援寄附基金で1千9百万円増加したことなどが主な要因である。

(今後の方針)
 毎年度末の余剰金を、将来の庁舎建て替えを見据えて、公共施設建設基金へ積み立てると共に、将来の施設老朽化対策費用に充てるため、公共施設修繕基金へ積み立てを予定している。

財政調整基金

(増減理由)
 令和4年度末の基金残高は、11億9千万円となっており、前年度とほぼ同額となっている。利子分の積み立てのみとなっている。

(今後の方針)
 平成27年度までは、財政調整基金を中心として積み立てていたが、今後は、基金の用途の明確化を図るために、財政調整基金を取り崩して個々の特定目的基金に積み立てていくことを予定している。

減債基金

(増減理由)
 毎年、利子分のみ積み立てを行っており、大きな変動はない。

(今後の方針)
 従来から起債による借入れをあまり行わないため、地方債残高は類似団体より大幅に少ない。地方債償還の財源は、毎年一般財源から償還しており、特に取り崩す必要もないことから変動はない見込み。

其他特定目的基金

(基金の用途)
 ・公共施設建設基金:公共施設建設に要する財源。
 ・公共施設修繕基金:公用又は公共用に供する施設の修繕に係る財源。
 ・地域福祉基金:住民が主体となって行う福祉活動を活発化するための財源。
 ・国際交流基金:外国との交流を図り、将来を担う青少年をはじめ、村民に国際交流の機会を提供し、国際化に即した地域社会の発展のための財源。
 ・ふるさと創生基金:自ら考え自ら行う地域づくり事業の資金。
 ・ふるさと応援寄附基金:ふるさと納税を財源とした基金で、寄付者の希望用途事業へ充当する。
 ・森林環境贈与税基金:森林環境贈与税を財源として森林の整備促進に必要な事業へ充当する。

(増減理由)
 令和3年度は、公共施設建設基金へ4億円、公共施設修繕基金へ2千6百万円、ふるさと応援寄附基金へ2千2百万円、森林環境贈与税基金へ2百万円積立てたことにより増加。
 令和4年度は、公共施設建設基金へ1億9千2百万円、公共施設修繕基金へ2千7百万円、ふるさと応援寄附基金へ1千9百万円、森林環境贈与税基金へ4百万円積立てたことにより増加。

(今後の方針)
 ・公共施設建設基金:将来の庁舎建て替えを見据えて積み立てていく予定。
 ・公共施設修繕基金:将来の施設老朽化対策費用に充てるため積み立てていく予定。
 ・ふるさと応援寄附基金:ふるさと納税の希望用途を参考に、各事業の財源として充当していく予定。